

に転じ、御家老座御帳掛書役助、同書役、御家老座書役助を歴任し、天保五年御家老座書役についた。嘉永二年春には口永良部詰をへ、同四年二月屋久島奉行に就任し、同時に役職相当の家格として一代新番となり児玉家隆盛の期を迎えるが、安政元年二月、五兵衛の死により、わずか十一歳の直太郎が家督を相続し、居も荒田へ移している。幼少無役の家督者のため経済的にも大きな影響があったことが窺える。「日記」も直太郎家督相続の記事をもつて終っている。

凡例

- 一史料に適宜、読点を付した。
- 一漢字は原則として当用漢字を用い、当用漢字にないものは正字を用いた。
- 一変体仮名は平仮名に改めた。
- 一原史料への付け加えは、すべて（ ）でもって示した。
- 一張紙、本文行間の記入がある場合には、その場所に①・②……のよう

天保十三年壬寅正月十二日夜晩五兵衛男子致出生、^(晩)焼故十三日ニ候事

写
本文比下ニ入置也
御自分事産穢ニて候得共、御用差支候付、穢被成御免候条、明日より可被致出勤候、此段申達候、以上

正月十三日

料紙下紙切紙切封
児玉五兵衛殿
(本文同文につき略す)

宮之原三十郎

私事産穢御免被仰付、明日より出勤可仕旨御達候趣奉長候、以上

正月十三日

切封
宮之原三十郎様

児玉五兵衛

天保十三寅正月十七日、生男子五日目弓射初、町田善八殿江相頼み、取答へ方児玉四郎兵衛妻おみわたの被相勤候、男子いたき手はおみつにて候、生子名善之介ト改、みつのへいぬ水性也

覚 請取数式拾四行
入付証文卷通

高頭式拾六石七升七合九勺式才

出米式石八斗九升五合

内、真米壹石四斗四升八合

赤米壹石四斗四升七合

真米式斗八升七合 賦米

合真米壹石七斗三升五合

合赤米壹石四斗四升七合

丑十月五日より同十二月廿三日迄受取拾八通

一真米式石

丑十二月十三日同十五日迄受取三通

一真米六斗九升四合

米ニノ三斗四升七合

丑十一月八日受取壹通

一真米三斗式升

寅正月十八日受取壹通

一真米式斗式升

米ニノ壹斗壹升

丑十二月廿三日受取壹通

一赤米七斗八升

一赤米六斗六升七合

右壹行入付証文 ①

向田出物蔵入

右同蔵入

柏原出物蔵入

右同蔵入

右同蔵入

合真米式石七斗七升七合
合赤米壳石四斗四升七合

差引

真米壳石四升式合過 ②

右は私持高去丑秋綱被仰付被下度奉存候、以上

天保十三寅二月十六日

児玉五兵衛印

高御奉行所

①本行ニ付赤米六斗六升七合代壳石ニ付九拾式匁かへニして六貫百三拾六文、出米座浜田毎助、瀬戸口吉次郎入付証文引結、代払いたし候、尤右之方ニ三步式朱差遣シ釣分百六十文受取、高所書役小牟田助右衛門殿江相頼ミ引結相濟、高綱も今日相濟候段助右衛門殿より御座入口ニて承届置候事

②本行過米之儀、起石故九斗六升ニて三俵ニ相成、半米八升式合之分は、出米座江代分八百式拾文ニ売払貰候事、相届候米ハ三俵也、内式俵ハ、壳俵ニて代四貫式百七拾式文ツ、ニ中買江相払候事

覚

一高拾七石

鹿兒島

犬迫村

一高三石

高山

野崎村

一高六石七升七合九夕二才

高城郡高城

城上村

右之通私持高所持仕候、以上

天保十三寅二月十六日

児玉五兵衛印

高御奉行所

高三拾式石三斗式升七合九夕式才
内六石式斗五升
但、此節相重

児玉五兵衛

右之通天保十三年寅四月九日御家老島津登殿より御用人小笠原轍御取次を以、高直御免被成候事

但、内書重高六石式斗五升鹿兒島中村堂蘭門浮免、市来七左衛門殿持高ニて、山之内貞玄殿方江永代被買取、此節高直拙名面迄ニ被相頼、

取納は都て貞玄殿方江有之、為見合記置候、尤以後此方高相求候時節は、彼方江右高名面差返シ高直しいたす等候事

本文納左之通

納米式石四斗八升八合

式斗七升六合代

納真米壳石七斗式升五合

壳斗式升式合代

出米七斗六升三合

内賦米六升九合

重出米壳斗八升八合

差出

戌札御改元

家内人数五人 本文差出、今日小興頭田畑直右衛門殿所江下人江為持差出候事

右は切支丹宗門御改ニ付、被仰渡趣承知仕候、右宗旨之者無御座候、

若以後入来候は、則言上可仕候、以上

寅六月七日

二番組家督

児玉五兵衛印

二番触役所

覚

帳面仕立ニシテ上書
天保十三年寅六月十三日
出米書出帳

児玉五兵衛

高頭三拾式石三斗式升七合九勺式才
出米賦米合三石九斗四升四合

一高三石 高山野崎村 下大藪門之内浮免

納米石七斗九升四合

右奉行柏原出物御蔵之上納

一高六石七升七合九勺式才

高城郡高城 城上村脇藪門浮免

納米石四斗七升九合

右奉行向田出物御蔵江上納

一高六石式斗五升

鹿兒島郡中村 堂藪門浮免

出米七斗六升三合

右奉行当所出物御蔵江出米上納

右之通当寅秋より年々上納仕候間、此段申上候、以上

寅六月十三日

児玉五兵衛印

高御奉行所

右之通山之内金之進殿方より高所直方江上、高所書役小牟田助右衛門殿江被相頼差出、相濟候事

差出

本文にて小與頭前田勇右衛門所江差出ヌ
丑八月より寅七月迄何御殿公相勤候哉可申出承知仕候、私事右日教御家

老座書役相勤申候、尤持高三拾式石余所持仕候、此段申出候、以上

寅八月八日

二番組家督 児玉五兵衛印

二番触役所

差出

戌札御改元

家内人数五人

本文寅十月七日小與頭前田勇右衛門殿使江直ニ相渡ヌ

出銀五分

錢ニノ四拾八文

右は当寅年壹分爲出銀上納仕候、以上

寅十月七日

二番与家督 児玉五兵衛印

二番触役所

証文

天保十四卯正月末身代四貫文
受取暇差免候事

市来湯田村 名内屋敷名子
札名休太郎

正助

右は致奉公度申来、未召抱候筋と申御免は無御座候へとも、拙者方江召仕置候儀、別条無御座候、依之爲御存如是御座候、以上

天保十三寅十二月廿七日

児玉五兵衛印

市来 郷土年寄衆

郡見廻衆

庄屋衆

覚 請取数三拾壹通
入付証文卷通

高頭三拾式石三斗式升七合九勺式才

内九斗八升三合九勺 上見付引入高

出米三石五斗五升八合

内真米石七斗七升九合

赤米石七斗七升九合

真米三斗五升五合 賦米

合真米式石七斗七升九合

寅十一月五日より同十二月廿二日迄受取式拾貳通

向田出物蔵入

一真米式石七斗八升貳合

右同蔵入

一真米九升

右同蔵入

寅十一月廿一日受取老通

右同蔵入

一赤米七斗八升六合

当所出物蔵入

寅九月廿九日より同十月十三日迄受取三通

柏原出物蔵入

一真米三斗八升三合

右同蔵入

寅十二月廿七日受取老通

一赤米四斗七升五合

右之通昨日限小與頭前田勇右衛門殿所江差出候儀致承知、今日御家老座詰所より勇右衛門殿詰所御台所江為持遣候事

合真米三石三斗七升三合

内卷斗四升八合赤米代入

合赤米石七斗七升九合

差引真米石九升卷合過

右は私持高去寅秋綱被仰付被下度奉存候、以上

天保十四卯正月十五日

児玉五兵衛印

高御奉行所

①赤入付代分七貫七百五拾八文、八拾目かへ也、右過真米石九升卷合

代拾貫三百六拾貳文、石石ニ付九拾五匁かへ、出米座被払右赤代分差

引貳貫六百四文受取

覚

一高拾七石

鹿兒嶋

犬迫村

一高三石

高山 野崎村

一高六石七升七合九勺貳才

高城郡高城 城上村

一高六石貳斗五升

鹿兒嶋 中村

右之通私持高所持仕候、以上

卯正月十五日

児玉五兵衛印

高御奉行所

覚

持高出米綱之儀、当年は勿論以来四月廿日限諸書付相調、高奉行所江急度差出、綱相逐候様被仰渡趣承知仕候、依之以来右御限日無間違綱相逐可申候付、此段御届申上候、以上

天保十四卯三月十五日

児玉五兵衛印

二番 触役所

差出

戌札御改元

家内人数五人

右は切支丹宗門御改ニ付、被仰渡趣承知仕候、右宗旨之者無御座候、若以後入来候は、則言上可仕候、以上

卯六月十一日

二番與家督

二番觸役所

児玉五兵衛印

本文小與頭前田勇右衛門殿所江為持遣し候事

御家老座 書役

児玉五兵衛

右者奥掛書役江戸詰等にて差支候付、着迄之間差寄相勤候様被仰付候条可申渡候

天保十三寅年 市成島津との也
七月 石見

本文御書付之写を以、御側御用人より被仰渡、寅年之座ニ留後候付、此場ニ記置候事

一天保十四年卯七月十七日與頭川田求馬殿於宅切支丹印形ニ付、朝五ツ時より七ツ時迄之間罷出候様被仰渡候へとも、御家老座御用有之遅ク相成、翌十八日児玉五兵衛六與觸所江罷出、書役東郷孫八殿江相頼印形相頼候事

一毎年七月六日南林寺脇寺妙仙院ニおゐて 施餓鬼有之、先代仕来通鳥目四拾八銅持参拜礼、めし杯は不給夫成引取候事

差出

寅八月より当卯七月迄何御奉公相勤候哉、可申出旨承知仕候、私事御家老座書役相勤申候、尤持高三拾弍石余所持仕候、此段申出候、以上

卯八月五日

二番與家督
児玉五兵衛印

二番觸役所

本文小與頭前田勇右衛門殿所江為持遣候事

此節御借状持合候有無可申出旨被仰渡趣承知仕、私事御借状所持不仕候、此段申出候、以上

卯閏九月四日

二番與家督
児玉五兵衛印

二番觸役所

本文小與頭前田勇右衛門殿詰所御台所江為持遣候事

差出

成札御改元
家人人数五人

出銀五分

錢ニノ四拾八文

右は当卯年考分為出銀上納仕候、以上

卯閏九月廿五日

二番觸役所

二番與家督
児玉五兵衛印

本文今日小與頭前田勇右衛門殿方江為持差遣候事

覺 請取数三拾三通
入付証文卷通

高頭三拾弍石三斗弍升七合九勺弍才

出米三石五斗八升八合

内真米壹石七斗九升四合

赤米壹石七斗九升四合

真米三斗五升六合 賦米

合真米弍石壹斗五升

合赤米壹石七斗九升四合

受取数三通卯閏九月十日より同十月三日迄

一真米七斗六升三合

受取数三通卯十月三日より同十一月朔日迄

一真米八斗三升弍合

受取老通卯十一月四日

一赤米三斗八升

受取数弍拾五通卯閏九月廿九日より同十一月十五日迄

一真米弍石三斗九升五合

受取老通卯十月廿四日

一赤米弍升七合

当所出物蔵入

柏原出物蔵入

右同蔵入

向田出物蔵入

右同蔵入

一赤米九斗七升

右入付証文①

合真米三石九斗九升

内四斗卷升七合 赤米代入

合赤米卷石七斗九升四合

差引真米卷石四斗式升三合過

右は私持高当卯秋綱被仰付被下度奉存候、以上

天保十四年

卯十二月廿日

高御奉行所

児玉五兵衛印

①卷石ニ付仮直成百目替ニ九貫七百文也、尤九斗七升限ニは入付証文

ニ相成由、小手田助右衛門殿より承、其通取計候事

覚

一高拾七石

鹿兒島

犬迫村

一高三石

高山

野崎村

一高六石七升七合九勺式才

高城郡高城

城上村

一高六石式斗五升

鹿兒島

中村

右之通私持高所持仕候、以上

卯十二月廿日

児玉五兵衛印

高御奉行所

御自分事忌中ニて候得共、御用御差支候付、忌被成御免候条、今日より可被致出勤候旨主計殿依御差函申達候、以上

天保十五辰

二月十三日

御側御用人也

相良甚太夫

安藤

保〔研究紀要 第三十四卷〕

下紙横切切封

児玉五兵衛殿

本文ニ付桃林玉幼童女忌中之時、御本文ハ此下ニ入置也

(本文略す)

右ニ付御受書於御家老座長野彦七殿認被具候由ニて今日八ツ後長野氏ニ福永直之丞殿同道ニて持參被具候、尤今日は病氣之御届旨具候由、直は今日柙之木馬場於御鷹場苑古取きた有之由ニ付、是非參候様一統江之伝言有之候へとも、不差渡候、御受書為見合さ之通留置候事

私事忌中ニて御座候得共、忌被成御免、今日より出勤可仕旨主計殿依御

差函御達之趣奉畏候、以上

二月十三日

児玉五兵衛印

自分半切切封

相良甚太夫殿

差出

成札御改元

家内人数五人

右は切支丹宗門御改ニ付、被仰渡趣承知仕候、右宗旨之者無御座候、若

以後入来候は、則言上可仕候、以上

辰六月十四日

二番與家督

児玉五兵衛印

二番觸役所

本文小與頭前田勇右衛門方より使參り候付、認相渡候事

差出

卯八月より辰七月迄之間何御奉公相勤候哉、細々可申出旨承知仕、私事御家老座書役與掛書役寄相勤申候、尤持高三拾式石余所持仕候、此段申出候、以上

辰八月三月

二番触役所

本文前田勇右衛門殿所江為持遣候事

二番與家督

児玉五兵衛印

右之通家屋敷代と相請取申候、以上

辰九月廿六日

児玉五兵衛様

谷元六右衛門印

差出

戌札御改元

家内人数五人

内老入死人

現人数四人

出銀四分

右は当辰年老分為出銀上納仕候、以上

辰八月十九日

二番與家督

児玉五兵衛印

二番触役所

本文錢四拾文相添、有馬七之助殿下人借用之助江為持、小與頭前田勇右衛門殿所江為持遣候事

写 請取

割印金子貳兩印

分ニノ拾六貫文印

右之通家屋敷代貳拾兩之内とノ慥ニ相請取申候、以上

辰八月十一日

児玉五兵衛様

谷元六右衛門印

請取

金子拾五兩印

右之通家屋敷代と相請取申候、以上

辰九月廿六日

児玉五兵衛様

谷元六右衛門印

請取

金子三兩

右之通屋敷代と相受取申候、以上

辰十月朔日

児玉五兵衛様

谷元六右衛門印

右三通合式拾兩也、外ニ証文有留略、本行受取考鑄ニ名前帳入弁当箱ニ入付置也

受取

金子三拾兩

分ニノ貳百四拾貫文

右は家屋敷代之内として慥ニ相受取申候、以上

辰八月十日

碓山様御役人衆

児玉五兵衛印

受取

金子貳拾兩

分ニノ百六拾貫文

右は家屋敷代之内とノ慥ニ相受取申候、以上

辰九月廿九日

碓山様御役人衆

児玉五兵衛印

受取

金子貳拾三兩貳朱

右之通家屋敷代殘金とノ皆納、慥ニ相受取申候、以上

辰十月十五日

児玉五兵衛印

碓山様御役人衆

右三通受取七拾三兩貳朱ニ碓山清太夫殿方江讓渡ス、尤柿本寺通自分名

前屋敷百五十坪、碓山殿境本西彦太郎殿方より買取置候屋敷貳畦(畝)、都合

七畦之分ハ、老畦貳拾五貫ツ、ニテ荒払、西殿方は二畦六拾貫文ニ受取、

家作之方四百貫文ニ請渡候事、尤天保十五年十月十五日碓山氏江引渡

ス、谷元方は同朔日屋敷相受取、即日より修甫取付、同十一月八日迄惣

成就いたし候事

但、西殿より讓受仕候二畦ハ碓山殿名前屋敷ニいたし頼上置候付、別

段屋敷直し申出ニ不及候事

証文

柿本寺通

家屋敷

右は私家屋敷此節都合五百八拾五貫文ニ讓渡申上候儀別条無御座候、屋敷直ニ付ては、公私共何ぞ故障之訳無御座候間、御勝手次第屋敷御直可被下候、為後日如是御座候、以上

辰十月十五日

児玉五兵衛印

碓山清太夫様

可被下候、此旨早々御返間申上候、以上

辰十二月十八日

証文

竹下清右衛門近所

柿本寺通

屋敷百五拾坪

但讓請屋敷

讓渡 児玉五兵衛
讓請 碓山清太夫

右は私居屋敷此節御方江永代讓渡申候間、可被成御披露候、為後証如是

御座候、以上

天保十五年
辰十月

御家老座書役

児玉五兵衛印

碓山清太夫殿

児玉五兵衛居屋敷碓山清太夫方へ讓渡、右五兵衛殿ハ谷元六右衛門居屋敷讓受度願之趣有之、願之通銘々被成御免候旨、辰十一月廿九日黒木御家老主計殿より島津権五郎、表御用人也、御取次を以被仰渡候事

但、小頭伊十院用八より申渡

右朱書之御書付、天保十五年十二月十七日、御勘定所書役濱島新九郎殿江相頼相受取候事、尤、本書御書付羽書は、この下ニ入置候、新九郎殿書状も入置也、碓山家へは写を以此方より用頼衆能勢彦左衛門殿江相渡置候事

証文

平山加十郎近所

高見馬場通

屋敷百六拾坪

但、讓請屋敷

讓渡 谷元六右衛門
讓受 児玉五兵衛

御手紙致拜見申候、然は先日承知仕候羽書之儀、誠ニ不埒之書、真平用捨奉願候、昨日やうくととまり山之内氏江差遣置申候間、左様思召

児玉五兵衛様貴間(下) 濱島新九郎

安 藤

保〔研究紀要 第三十四卷〕

右は私居屋敷此節御方江永代讓渡申候間、可被成御披露候、為後証如是御座候、以上

天保十五年 辰十月

辰十月

谷元六右衛門印

児玉五兵衛殿

右式通之通、辰十月廿日時分山之内貞玄殿被參候付、右江相頼御勘定所書役濱島新九郎殿江頼入貰、御勘定所屋敷方江差出貰置候処、辰十二月二日名代山崎半助殿方にて、屋敷方より今日都て願通被仰付候段致承知候付、直ニ碓山家又は谷元氏江も手紙を以て御知申候、碓山氏方も御勘定所より被致承知候段承届置候、尤書付等は不相渡、口達にて半助殿被承届、左候て半助殿名前御勘定所屋敷方御帳留江被書載候由ニ付、此旨記置也

一辰十月十二日道奉行益満新十郎殿江相頼、門明直シ方之見分相頼候処、翌十三日道方下目付鎌田納右衛門殿と申人耆人、朝四ツ時分門前迄被參、拙者出会大工は神田與兵衛也、間竿取ニ差出候処、夫にて相濟被引取、同十四日絵図面道方より相下り候付、本門引直、生垣植直し方も相濟候ニ付、猶又道方江成就之御届書付を以申出置候処、其後前条下目付納右衛門殿被參、成就見分之上右相渡し被置候、絵図面も被相受取、門前迄にて首尾能相濟被引取候、尤最初見分被參候翌日看一折為持致進上候事

右ニ付御勘定所御届左之通

私居屋敷本門出入不宜候付、別紙絵図面之通道奉行所御免之上、本門明直シ并生垣植直し方仕候付、此段御届申上候、以上

辰十月廿日

谷元六左衛門

右之通五兵衛方いまだ屋敷不相直候付、右六右衛門殿名前於此方相認、御勘定所屋敷方江山崎半助殿を以御届申出候事 道奉行所江も同断六右

衛門殿名前にて申出候事

覚

居屋敷高見馬場通

右之通私居屋敷相替申候付、明細書為御見合此段申上候、以上

辰十二月三日

御家老座 書役

児玉五兵衛

右之通御用人座書役辻直太郎殿江相頼、御用人江差出貰候事

二番組小與五番より

右同小與七番江

小與替 児玉五兵衛

本文通小與替之儀與所書役大脇安兵衛殿江相頼置候処、天保十五辰十二月四日進達掛山田愛蔵より安兵衛殿名代にて致承知候事
本文は児玉十兵衛との方も同様一紙ニ羽書相渡候付、十兵衛殿方帳面江認置候事

覚 請取數三拾壹通

高頭三拾式石三斗式升七合九勺式才

出米三石五斗八升八合

内真米壹石七斗九升四合

赤米壹石七斗九升四合

真米三斗五升六合 賦米

合真米貳石壹斗五升

合赤米壹石七斗九升四合

請取數式通辰九月十七日より同廿八日迄

一真米七斗六升三合

受取數式通辰九月十七日より同十月三日迄

一真米四斗三升

当所出物藏蔵入

柏原出物蔵入

受取老通辰十月十六日
一赤米七斗八升

右同蔵入

受取数式拾五通辰十月十日より同廿四日迄
一真米式石四斗壹升三合

向田出物蔵入

受取老通辰十月十七日
一赤米式升七合

右同蔵入

一赤米九斗八升七合

入付証文①

合真米三石六斗六合

合赤米老石七斗九升四合

差引真米老石四斗五升六合過

右は私持高当辰秋綱被仰付被下度奉存候、以上

天保十五辰十二月廿四日

児玉五兵衛印

高御奉行所

①本行赤米入付之儀ハ、過真米を以色替差引ニて現過米式石入式俵相受取、半米は壳払候事

覚

一高拾七石

鹿見島

犬迫村

一高三石

高山

野崎村

一高六石七升七合九勺式才

高城郡高城

城上村

一高六石式斗五升

鹿見島

中村

右之通私持高所持仕候、以上

辰十二月廿四日

児玉五兵衛印

高御奉行所

右綱今日小手田助右衛門殿江相頼相濟候事

天保十五辰十二月十三日より弘化ト改元、弘化二年巳正月四日、御家老座より諸向御通達相成、同八日小與頭福島良助殿方より御触致承知候事

一弘化二年乙巳四月十二日夜九ツ半過比男子致出生候事
本文通十二日夜半ニ候へは、十三日ニて候へとも十二日柄互候付、十二日誕生ニ相究候、十二日より五日目十六日ニ当日弓射髪つミ初、弓之方能勢彦兵衛殿、答方おすミとの、有馬七兵衛妻彦兵衛妹との也、相頼、名を当年きとの曰性ハ火ニ付木性もよく候ニ付直太郎ト改

御自分事産穢ニて候得共、御用差支候付、穢被成御免候条、明日より可被致出勤旨、央殿依御差函申達候、以上

四月十三日

下紙半切切封 児玉五兵衛殿

堅山武兵衛

切札御請

私事産穢被成御免、明日より出勤可仕旨依御差函御達候趣奉畏候、以上

四月十三日

堅山武兵衛様

児玉五兵衛

右之通百田紙半切ニ認、切封ニ御請書触番江相渡候事、御本文此下ニ入置也、武兵衛殿ハ御側御用人ニて候、拙者奥掛番ニ付御側江相下候事、但、出勤ハ平服袴也
(本文同文に付略す)

差出

戌札御改元

家内人数五人

内老入死人

外ニ式人生子

現人数六人

右は切支丹宗門御改ニ付、被仰渡趣承知仕候、右宗旨之者無御座候、若以後入来申候は、則言上可仕候、以上

巳六月七日

二番触役所

二番與家督

児玉五兵衛印

本文小與頭福島良助殿所江弘化二巳六月七日晚時為持遣候事

差出

辰八月より当巳七月迄之間何御奉公相勤候哉、細々可申出旨承知仕、私事御家老座書役奥掛書役寄被仰付置相勤申候、尤持高三拾式石余所持仕候、此段申出候、以上

巳八月四日

二番與家督

児玉五兵衛印

二番觸役所

本文小與頭岩下仲右衛門殿所江為持遣候事、平之子使

差出

戌札御改元

家内人数五人

内卷人死人

外式人生子

現人数六人

出銀六分

右は当巳年考分為出銀上納仕候、以上

巳八月十日

二番與家督

児玉五兵衛印

二番觸役所

本文巳八月十日平之子使にて小與頭岩下仲右衛門殿所江為持遣候処、隨ニ受取候由承届候事

一弘化二巳十月十六日児玉五兵衛事、来午秋代祢答院下代被仰付、同十

九日有村源左衛門殿江拾式貫五百目ニ致附属、尤則銀入付也、金百五

拾六兩考歩、分ニノ千式百五拾貫文也

但、致附属候儀別条無之、勝手次第名面替可被申出、尤名面替之節ハ、

拙者方江引合之上被申出候、筋之証文ニ金子受取書源左衛門殿江相渡置候、肝煎人前田勇右衛門殿同伴今夜五ツ前□半被参引結いたし候事、拙書受取正留等并彼方より被遣候書付此下ニ貫キ置候事

請取

金百五拾六兩考歩

分ニノ千式百五拾貫文

右は来午秋代祢答院與下代為附属料遣ニ相受取申候、以上

弘化二年巳十月十九日

篠崎殿舎弟之由

有村源左衛門殿

児玉五兵衛印

此節巳十月廿日式朱二切、考歩出ス、巳十月廿一日出ス、考歩銀一切、式朱四切ノ三歩

証文

私江此節被仰付候、来午秋代祢答院與下代別紙受取書之通、貴様御方江附属申上候儀、別条無御座候、名面替之儀は御勝手次第御申出可被成候、尤名面替御申出候節は、私方江御引合被下候上御取計可被下候、依之如是御座候、以上

巳十月十九日

有村源左衛門様

児玉五兵衛印

春日大明神 廿八日

両神ケヤキ札ニ本文通銘書
白尾貞齋殿刻被致候

諏方大明神 廿八日

右之通弘化二年きのとの巳十一月廿八日 民神奉建立

祭神社家久保田
諏方有屋田氏

毎年十一月廿八日祭

二代児玉五兵衛

利容立

寛

鹿兒島 犬迫村

一高拾七石 高城郡高城 城上村

一高六石七升七合九勺式才 高山 野崎村

一高三石 鹿兒島 中村

一高六石式斗五升 右之通私持高所持仕候、以上

児玉五兵衛

留寛 請取数三拾三通

高頭三拾式石三斗式升七合九勺式才

出米三石五斗八升八合

内真米壹石七斗九升四合

赤米壹石七斗九升四合

真米三斗五升六合 賦米

合真米式石壹斗五升

合赤米壹石七斗九升四合

受取数式通已十月十日

一真米七斗六升三合

受取数式通已十月八日より同十七日迄

一真米八斗五升三合

受取数式通已九月廿四日より同十月十八日迄

一赤米三斗五升六合

受取数式拾七通已十月六日より同廿四日迄之間

一真米式石四斗三升四合

一赤米九斗八升七合

右行入付証文

合真米四石五升

内四斗五升壹合赤米代ニ入

合赤米壹石七斗九升四合

差引真米壹石四斗四升九合過

右は私持高去已秋綱被仰付被下度奉存候、以上

午正月晦日

高御奉行所

児玉五兵衛印

寛

鹿兒島 犬迫村

一高拾七石 高城郡高城 城上村

一高六石七升七合九勺式才 高山 野崎村

一高三石 鹿兒島 中村

一高六石式斗五升 右之通私持高所持仕候、以上

児玉五兵衛

差出

巳札御改元

家内人数六人

右は切支丹宗門御改付、被仰渡趣承知仕候、右宗旨之者無御座候、若以

後入来申候は、則言上可仕候、以上

午六月九日

二番觸役所

右之通弘化三年六月九日、小與頭有馬新七殿方江為持差遣候事

書物

市来湯田村

満園屋敷名子

亡善太郎弟

喜助従弟本名三太郎

喜左衛門

札年五拾四歳

右者嶋津壹岐殿持百姓ニて御座候処、拾年季私方江奉公仕度申来候、

於御免は雇銀相對を以相渡召抱置申度御座候、尤抱之内諸郷并本門江

遣し置候儀、又は抱之名代罷出候儀會て仕間敷候、若背御法候儀被聞

召付候は、何様とも御沙汰次第可被仰付候、且又抱主人相直儀御座候

は、其段申出御差図次第可仕候、勿論年季管合又は入用無之節は、早速本門江相返し即御届可申上候、為後証如是御座候、以上

但、外ニ年季は無御座候、尤持高三拾式石三斗式升七合壹勺式才所持仕候
午二月

御郡方
御家老座書役
兒玉五兵衛印

留覚
市来湯田村満園屋敷名子
亡善太郎弟喜助從弟
本名三太郎

札年五拾四歳

右者去午二月御免之上拾年季私方江召抱置申候処、入用無御座候付、本門江差返申候間此段御届申上候、以上

子正月十八日
喜左衛門
兒玉五兵衛

右覚書之通、嘉永五年子正月十八日相認、十悦殿を以郡奉行大野鍊兵衛殿江差出候処、本文通可然承届、尤所方江も問合被致呉候様頼入候事、且又右喜左衛門事当分三五名前之者ニ付、同十九日朝十悦殿を以申届置候事

右□午二月七日方山方出役有馬仁之助殿江相頼、右喜左衛門殿ニも差出候義郡奉行樋口休八殿逢見分、諸事相濟郡方より所問合迄もいたし實候事尤□殿役人問合并受持郡奉行小森八左衛門殿免許写書付、所問合も取揃差出写此帳ニ結付置候事

留

御自分事忌中ニて候得共、御用差支候付、忌被成御免候条、明日より可被致出勤旨老岐殿依御差図申達候、以上

弘化三年七月五日

下紙半切切封
兒玉五兵衛殿
御本文此下ニ入置也
(本文同文に付略す)

張紙
御受

私事忌被成御免、明日より出勤可仕旨老岐殿依御差図御達之趣奉畏候、以上

七月五日
百田半切切封
堅山武兵衛様
兒玉五兵衛

一出勤は平服也
御側御用人也

右父上様御同服之御妹吉井源七郎殿継母おてり様、昨日日昼九ツ時分卒中風塩梅ニて御死去、伊十院甚右衛門様為ニも御妹也、尤伊十院甚右衛門殿方より亡吉井笑八郎殿江縁與之人ニて候、父上様御直母吉原助市殿方より被参居、其後亡伊十院甚右衛門殿江縁付、其服ニ当伊十院甚右衛門殿、右おてり様ニも御同服故、父上様御事異父之御兄弟故、拙者為ニも伯母分故、^(叔)甚助殿江相頼、御用人座江承、積貫候処、拙者忌五日服十五日可相掛段承候ニ付、今日御家老座御届之儀、右甚助殿江相頼候事

留覚 請取数三拾通

料紙百田堅紙
高頭三拾式石三斗式升七合九勺式才
出米三石五斗八升八合
内真米壹石七斗九升四合

赤米壹石七斗九升四合

真米三斗五升六合 賦米

合真米貳石壹斗五升

合赤米壹石七斗九升四合

請取數貳通午九月十八日
一真米七斗三合

当所出物蔵入

請取數壹通午九月十八日
一赤米六升

右同蔵入

請取數三通午十月八日より同十一月十五日迄
一真米五斗六升七合

柏原出物蔵入

請取數壹通午九月十四日
一赤米六斗四升

右同蔵入

請取數貳拾三通午八月十七日より同十月十六日迄
一真米貳石四斗壹升四合

向田出物蔵入

一赤米九斗八升七合
右巷行入付証文

合真米三石六斗八升四合

内壹斗七合 赤米代入

合赤米壹石六斗八升七合

差引真米壹石四斗貳升七合過

右は私持高当午秋綱被仰付被下度奉存候、以上

午十二月

児玉五兵衛印

高奉行所

料紙百田半切
覚

一高拾七石

鹿児島

大迫村

一高三石

高山

野崎村

一高六石七升七合九勺貳才

高城郡高城

城上村

一高六石貳斗五升

鹿児島

中村

右之通私持高所持仕候、以上

午十二月

児玉五兵衛印

高奉行所

一母上様御事弘化四年未三月八日昼大かね比御死去、翌九日葬式

御自分事忌中ニテ候得共、御用差支候付、忌被成御免候条、明日より可

被致出勤旨御差図ニテ候、以上

三月廿二日

児玉五兵衛殿

新納主税

一下紙切封也、此下ニ本書入置也、御受書左之通、百田紙半切切封ニテ触番江相渡ス

私事忌被成御免、明日より出勤可仕旨、依御差図被仰渡趣奉畏候、以上

弘化四未三月廿二日

新納主税様

児玉五兵衛

一翌廿三日平服羽織袴ニテ致出勤、御用人新納主悦殿江罷出候旨御届申出候事

差出

巳札御改元

家内人数六人

内耆人死人

右は切支丹宗門御改付被仰渡趣承知仕候、右宗旨之者無御座候、若以後
入来申候ハ、則言上可仕候、以上

未六月十日

二番与家督

児玉五兵衛印

二番触役所

右之通小與頭松岡信兵衛殿所江為持差遣候事

差出

午八月より当未七月まで之間、何御奉公相勤候哉、細々可申出旨承知仕候、私事御家老座書役被仰付置相勤申候、尤持高三拾式石余所持仕候、此段申出候、以上

未八月四日

二番触役書

本文今日小與頭久保喜右衛門殿所江為持遣候事

差出

已札御改元

家人人数六人

内老人数七人

現人数五人

出銀五分

右は当未年考分為出銀上納仕候、以上

未八月十九日

二番與かどく

児玉五兵衛印

二番触役所

本文未八月十九日、小與頭久保喜右衛門殿所江出銀相添、下人徳を以為持差遣候事

帳面上ふた紙

未六月

持高出米書出

児玉五兵衛

高頭三拾式石三斗式升七合九勺式才

内六石七升七合九勺式撮 寺社方上地

現高式拾六石式斗五升

諸出来三石式斗式合

内高拾七石

鹿兒島犬追村

上久木田門

出来石式斗三升式合

右老行当所出物蔵入

高三石

高山野崎村

下大藪門之内浮免

米老石老斗九升四合

右老行柏原出物蔵入

高六石式斗五升

鹿兒嶋中村

堂藪門浮免

米七斗六升三合

右老行当所出物蔵入

外ニ高六石七升七合九勺式撮、当年より上地

右之通当未秋より私持高出米上納仕候間、此段申上候、以上

未六月

児玉五兵衛

右之通帳老冊ニ調掛張いたし、弘化四未六月廿四日朝高所書役小傘田助右衛門殿江相頼案文算面迄もいたし貫、即日出勤之上御家老座張物師柳田怒右衛門を以助右衛門殿詰所江為持頼遣候処、宜體ニ受取候段承届候事

差出

芸道家筋有無之訳可申出旨被仰渡趣承知仕候、私事芸道家筋之者ニて無御座候、此段申出候、以上

未十月十三日

二番家督

児玉五兵衛印

二番触役所

右之通小與岩下仲右衛門殿所江為持差遣候事

本文通弘化四年未十月廿一日小與頭平山加十郎殿所江差出候事

留弘化四年未十月

差出

二番組小與七番
児玉五兵衛

此節御軍役方御用ニ付、六拾歳以下拾五歳以上罷成候者二男三男末子迄并所持之武器可申出旨被仰渡趣承知仕、左ニ申上候

御家老座書役
家督

児玉五兵衛

一当四拾三歳

但 御軍役太刀被相勤可申候

一役料米三拾四俵

(消印)

〔右外ニ嫡子儀は拾五歳以下并下男罷居不申候〕

(消印)

〔一御軍役相勤候節は、太刀ニて相勤申候〕

一手鎗老本

一陣笠老ツ

一半首老ツ

(消印)

〔右三行所持仕、其外武器所持不仕候〕

右之通相違無御座候、以上

弘化四年未十月

二番組小與七番
家督児玉五兵衛

二番觸役所

安 藤

保〔研究紀要 第三十四卷〕

料紙百田堅紙ニ認 覚 請取數八通

高頭三拾式石三斗式升七合九勺式才

内六石七升七合九勺式才 寺社方上地

現高式拾六石式斗五升

出米式石九斗壹升四合

内真米壹石四斗五升七合

赤米壹石四斗五升七合

真米式斗八升八合 賦米

合真米壹石七斗四升五合

合赤米壹石四斗五升七合

請取式通

一真米壹石式斗三升五合

〔四斗七升五合〕

請取式通

一赤米七斗五升七合

(消印)

〔請取式通〕

一真米七斗六升三合

請取式通

一真米四斗三升

(消印)

〔請取式通〕

一真米七升七合 入付証文壹通

請取式通

一赤米七斗七升九合

(消印)

一真米七升七合 入付証文壹通

〔六斗六升八合〕

合真米壹石七斗四升五合

合赤米壹石五斗三升六合

(消印)

〔内七升七合 真米代ニ入〕

当所出物蔵入

右同蔵入

右同蔵入

柏原出物蔵入

右同蔵入

差引赤米七升九合過

〔式合過〕
消印

右は私持高当未秋綱被仰付被下度奉存候、以上

未十一月十四日

児玉五兵衛印

高奉行所

〔挿入〕
〔此通書様と候へ共、是よりもク細相認事

証文

此所書下シ、浮免を脇へ書、此文字名寄
帳文字ニ引合之事

松山新橋村飯屋門之内

高五石

浮免

右は御方江此節右高永代売渡申候間、被成御披露御方高御直可被成
候、為後証如此御座候、以上

年号此高サ

文政四年巳二月

高主 尾上矢兵衛

証拠 松田甚兵衛

宛名此高サ

児玉十兵衛殿

半切ニ認覚

一高拾七石

鹿兒島

犬迫村

一高三石

高山

野崎村

一高六石七升七合九勺式才

高城郡高城

城上村

但、寺社方上地

一高六石式斗五升

鹿兒島

中村

右之通私持高所持仕候、以上

未十一月十四日

児玉五兵衛印

高奉行所

右高綱高所書役小牟田助右衛門殿江相頼置候処、前条直付通真米之方入
付証文通不足、赤米之方過上ニおよび御立直成相受取、蔵受取書物も高
所江被預置候処、弘化四年未十二月十四日右直付通拙者詰所江持参いた
し被呉候付、消印いたし、同日御家老座張物師柳田恕右衛門使を以弥頼
遣候、尤入付証文迄も七升七合御爰直成

拾九百文かへ八百三拾九文、過赤米七升九合代五百拾三文ニ出米座
より算面分差引出米座入付不足真米代三百式拾六文ハ同十二月十七日
出勤之上、御家老座紙継川口新右衛門を以小牟田助右衛門殿江紙包ニ
書付いたし為持差遣候処、慥ニ受取之由承届、尤綱之儀も弥去ル十
四日相済候段承届置候事
算面書此帳ニ貫キ置也

弘化四年未十二月十八日

児玉五兵衛

差出

高頭三拾式石三斗式升七合九勺式撮

内拾七石

鹿兒島犬迫村

上久木田門

六石二斗五升

鹿兒島中村

堂蘭門浮免

但 亡山之内貞玄殿方江借用金有之、利足方ニ取納米差遣置申候得とも、首
尾相済受返申候

三石

高山野崎村

下大蘭門浮免

六石七升七合九勺式撮

高城郡高城城上村

脇蘭門浮免

但 当未六月十八日寺社方御借付銀之内、尙實五百九拾目七分利付拝借被仰
付、当秋より右高所務返上之方ニ差上置申候

差引残

高式拾六石式斗五升

右当分私方江取納仕高ニ御座候

右は此節持高員数并脇方より買取置候高は勿論、致附属候高迄も現事之
処委曲可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間此段申上候、以上
弘化四年

未十二月十八日

鳴津登組
御小姓與

兒玉五兵衛印

本文同条式通小與頭松岡信兵衛殿方未十二月十九日下人江為持差遣候処、隨ニ受取候
段承届候事、尤老通へ御郡役方 老通へ高奉行所御用之由

一弘化五申三月十五日より嘉永と年号改元被仰渡候事

差出

已札御改元

家内人数六人

内老人死人

右は切支丹宗門御改ニ付、被仰渡趣承知仕候、右宗旨之者無御座候、若
以後入来申候は、則言上可仕候、以上

申六月十日

二番與家督

兒玉五兵衛印

二番觸役所

右申六月十日小與頭平山加十郎殿方之差遣候事

留

高頭式拾六石式斗五升

諸出米三石式斗式合

内高拾七石

鹿兒島大迫村

上久木田門

米老石式斗三升式合

右老行当所出物蔵入

安 藤

保〔研究紀要 第三十四卷〕

高三石

高山野崎村
下大藪門之内浮免

米老石老斗九升四合

右老行柏原出物蔵入

高六石式斗五升

鹿兒島中村
堂藪門浮免

米七斗六升六合

右老行当所出物蔵入

右之通私持高出米上納仕候間、此段申上候、以上

嘉永元年

申六月十四日

一ふた紙ニ

嘉永元年申六月

持高出米書出

兒玉五兵衛

(誤入カ)

一地白米式斗 老升八錢四りツ、

代金老円六拾八錢

此処ニ式円請取殘三拾式錢殘金

兒玉様 一月十四日

一兒玉五兵衛利容事、嘉永元申六月十五日大炮御流儀願成田正右衛門殿

江致入門、致血判候、詰席御側役海老原宗之丞殿、御納戸奉行三原藤

五郎殿、成田正右衛門殿、御目錄弘方御趣法方書役上井甚七殿ニて候、

早朝成田氏江差越候、御家老座書役一統順々致入門候事

但、弟子付進物百銅御家老座在金之内より取仕立相成候事

差出

未八月より当申七月まで之間何御奉公相勤候哉可申出旨承知仕候、私事御家老座出役被仰付置相勤申候、尤持高式拾六石式斗五升所持仕候、此段申出候、以上

申八月六日

二番與家督

児玉五兵衛印

二番觸役所

右之通嘉永元申八月六日小與頭有馬新七殿所江為持差出候事

右者来酉春代口永良部嶋詰申付候条、御軍役方并御趣法方江も届申出、彼是御用向可致承知旨可申渡候

八月 右膳

右之通嘉永元申八月四日月番御目付谷川民之進殿より、明五日四時御用致承知、平服にて罷出、谷川江御届申出候处、御本文通大目付名越右膳殿より被仰付候旨御書付被相渡候付、難有御受御礼言上、夫より引取御趣法方御用人友野市助殿江御届申出候、夫より御軍賦役方野元源五左衛門殿江申出候处、海老原宗之丞殿当分旅行ニ付、被罷帰候上届可申出旨致承知候付、其後海老原氏江も申出候处、追々御用向可被達と之事致承知候事、来春代り役ハ横目四本喜十郎殿にて候、尤三月朔日代り也

差出

已札御改元

家内人数六人

内老入死人

現人数五人

出銀五分

右は当申年考分為出銀上納仕候、以上

申八月十四日

二番觸役所

右之通嘉永元申八月十四日小與頭有馬新七殿所江差出候事

二番與家督

児玉五兵衛印

ふた紙

嘉永元年申十月

差出

鳴津登組
御小姓與 児玉五兵衛

二番組小與七番方限
御小姓與 児玉五兵衛

一持高式拾六石式斗五升

一御家老座書役

但、御軍役不被仰付置候、来酉春代口永良部嶋詰被仰付置候

一当申四拾四歳

一居所高見馬場

右御用相成候間可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間、此段申上候、以上

嘉永元年申十月

児玉五兵衛印

六番組
二番觸役所

右之通帳面江仕立、申十月廿六日、同案式通小與頭佐伯善左衛門殿所江為持差出候事

嘉永元年申十二月

差出

二番組小與七番
児玉五兵衛

此節御府内無縁塔御糺方御用付、荒墓取始抹仕候様被仰渡趣承知仕候、
私事妙仙院檀方ニテ御座候、尤墓左之通御座候
一 荒墓無御座候

妙仙院西之方

一墓六ツ

右之通御座候、以上

嘉永元年申

十二月十一日

二番組小與七番

児玉五兵衛印

右之通一冊ニ小與頭久保喜右衛門殿所江為持奉遣候事

右ニ付別紙羽書左之通、同断一所ニ差出

此節御府内無縁塔御糺方御用ニ付、家来下人又は屋敷内江召置候者、荒
墓取始抹被仰渡趣承知仕候、私事家来下人亦是屋敷内江召置候者無御座
候、此段御届申上候、以上

申十二月十一日

二番組小與七番

児玉五兵衛印

二番触役所

一 嘉永二年己酉正月十三日晝夜明前男子致出生候事

但、十二日夜七ツ前より産ノ催也、大かね過夜明前致出生候事、五

日目千二郎と名相付

右付御家老座産穢御届之儀、長野彦七殿江相頼候事

御自分事産穢ニテ候得共、御用差支候付、穢被成御免候条、明日より
可被致出勤旨御差図ニテ候、以上

嘉永二つちのとの酉
正月十三日

児玉五兵衛殿

嶋津主水

下紙半切認、切封ニテ被仰渡候事、御本書此下ニ入置也
(本文同文に付略す)

右付御受書、百田半切ニ認切封左之通

私事産穢被成御免、明日より出勤可仕旨被仰渡趣奉長候、以上

嶋津主水様

児玉五兵衛

百田堅紙ニ認 留覚 請取数九通

高頭式拾六石式斗五升

出米式石九斗卷升四合

内真米卷石四斗五升七合

赤米卷石四斗五升七合

真米式斗八升八合 賦米

合真米卷石七斗四升五合

合赤米卷石四斗五升七合

請取三通

一 真米卷石式斗三升八合

請取卷通

一 赤米七斗五升七合

請取三通

一 真米四斗卷升九合

当所出物蔵入

右同蔵入

柏原出物蔵入

請取式通

一赤米七斗九升

一真米八升八合

右同藏入
入付証文書通

合真米壹石七斗四升五合

合赤米壹石五斗四升七合

差引赤米九升過

右は私持高去申私綱被仰付被下度奉存候、以上

壽永二年

酉正月十三日

児玉五兵衛印

高奉行所

覚

一高拾七石

鹿兒島 犬迫村

一高六石貳斗五升

鹿兒島 中村

一高三石

高山 野崎村

右之通私持高所持仕候、以上

酉正月十三日

児玉五兵衛印

高奉行所

右高綱酉正月十三日朝十悦殿を以高所書役西郷助右衛門殿江相頼置候、尤藏受取も都て差遣候事、酉二月八日綱相濟候、有無尋遣候処綱相濟候段致承知、尤赤米過真米不足故、是又尋遣候処、纒之行違にて何ぞ差引等も不及候付、其通納得可致、手紙返書を以致承知候事、手紙此帳ニ貫キ置也
(右手紙なし)

差出

申八月より酉七月迄之間何御奉公相勤候哉、可申出旨承知仕候、私事御家老座書役被仰付置相勤申候、尤持高式拾六石貳斗五升所持仕候、此段申出候、以上

酉八月九日

二番觸役所

本文小與頭福崎清之進殿所江嘉永三酉八月九日差出ス

二番組家督
児玉五兵衛印